

## 固形廃棄物処理の創意

- 1 自治体名 江蘇省  
2 発表者名 金姝嫻、単鏡源（啓東市匯龍中学校）

### 3 活動を始めた経緯

一人一人がごみの製造者であり、被害者でもあり、とりわけ管理者でもあるべきだ。一人一人がごみを分類し、しゃがんで、拾って、捨てる動作の間に、紙、瓶、缶に、「ごみを資源に変え、財産に変え、風景に変え、健康に変え、助学に変えることができる……」という偉大な転換を与える。これは、私たちがごみ分類を行う際の理念創意であり実践創意である。

### 4 発表要旨

#### (1) ごみ分類の創意

教室の一隅に、私たちはごみを紙くず、ペットボトル、缶、廃棄電池と回収不能なごみとして分け、環境保護コーナーを設けた。実践の過程で、みなさんから沢山の創意があり、それを実施した。

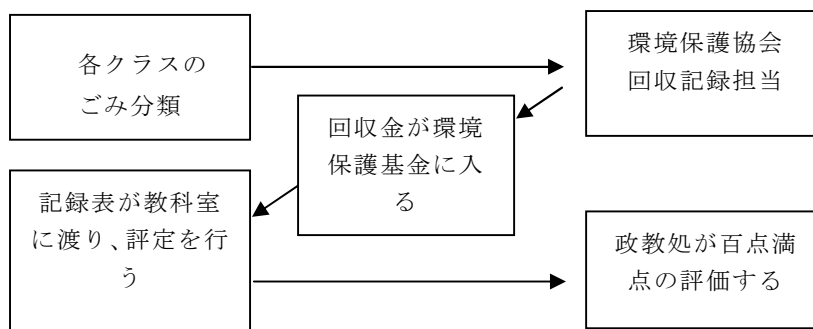
ア 使い捨てのビニール袋でごみを回収すること自体が環境保護ではなく、繰り返し使用できる編み袋かプラスチック籠を用いて分別すれば、この問題を解決できる。

イ コカコーラの箱を紙くずの回収ボックスにする。これは、郵便ポストからヒントを得た環境保護の小さな創意である。回収ボックスに環境知識に関する図、名言、スローガンなどを貼ることによって、宣伝教育の役割を果たすことができる。これこそ、廃棄物が再び光り、簡便でかつ役に立つことである。

ウ 廃棄電池の収集には密封した容器を作る。桶形のポテトケースが適用である。これは丈夫かつ綺麗で、教室内での場所も取らない上、リサイクルにもなる。ごみの分類回収、再利用を通して、ごみの量を減らし、資源化、資本化、循環化し、これにより「ごみゼロ校庭」を実現する。

#### (2) ごみ分類のフロー

下図はごみの分類回収のフローチャートである：



#### (3) 「ごみゼロ校庭」の管理メカニズム

学生環境保護協会から自主管理し、独自の特徴を持つ一連の環境管理メカニズム

を形成した。これは、我が校における環境教育の最大の特徴でもある。

#### ア 標準化策定メカニズム

科学は人々を理に悟らせ、標準は人々をずれから防ぐ。学生環境保護協会が《匯龍中学校環境保護便覧》の制定を通して、「ごみゼロ」の標準と実施操作、評価奨励などの方法を確定した。

#### イ 環境管理メカニズム体制

階級管理メカニズム、循環管理メカニズム、監査メカニズム、項目別回収評定メカニズム及び「緑色クラス」評定メカニズムからなる。

- (ア) 階級管理メカニズム：「環境保護コーナー」横の二人の生徒が第一責任者、生活委員が第二責任者、クラス長が第三責任者になる。近いところからの原則を実施し、一人一人が責任を果たし、一環一環がつながり、責任を明確にする。
- (イ) 循環管理メカニズム：「検査－通報－再検査－改正－再通報」の環境管理方法。最大の長所は、被管理者に「今だけ」、「ここだけ」という心理がないようにし、管理が効率的かつ長続きすることである。説教を避け、実務的で有効である。管理者と被管理者の地位は平等で、意思疎通を図り、容易に認め合う。
- (ウ) 環境保護監査メカニズム：階級管理メカニズムを徹底し、循環管理メカニズムを強化した上で、「ごみゼロ校庭」特別監査隊を作り、環境保護監査を実施し、クラスと学校の隅々まで監査を実施するなど。
- (エ) 「緑色クラス評定メカニズム」：ごみの分別回収金額、環境行動、監査評定状況などを一定の点数とし、「緑色クラス評定表」を作成し、評定を行う。この行動は完全に客観、公正、透明で効果がある。
- (オ) 項目別回収評定メカニズム：廃棄電池、紙くずの回収などを項目別に評定し、廃棄電池は一人1個を1点、紙くずは1キロを10点として「緑色クラス評定要素表」に記入する。これは、効果が直ちに現れ、とても良い。
- (カ) 100点審査メカニズム：学校の100点審査メカニズムと「緑色クラス」の評定メカニズムをうまく結び付け、学生自主管理と担任管理を統一する。

#### ウ 「環境保護積分制」

生徒が紙1枚、缶1本、ペットボトル1本、電池1個を収集するのに対応して記録し、奨励する。

#### エ 経費収集メカニズム

ごみ分別回収の金額より「匯中環境保護基金」を形成し、2000年から2005年5月までに25,000元あまりの資金を回収した。これで、盆景を購入して環境を美化した；電気黒板拭きを購入し粉塵汚染をなくした；苗木を購入して「黄河読者林」を作った；環境保護助学を学習する勤勉で、経済的に困難な生徒を援助した；「緑縁」、「百杏園(Bai Xing Yuan)」、「玉梅園(Yu Mei Yuan)」、「湖辺緑色」、「緑色宣言屏風壁」など緑の景観を作り、腐朽を元気に替え、「ごみを資源に変え、財産に変え、風景に変え、健康に変え、助学に変えることができる……」を実現した。「学校は分別を行い、社会が分別しなければ結果は無駄だ」という難問を解決した。